

「学校関係者評価報告書」の公表について

本校においては、教育や業務の改善を図るために、自己点検・評価に取り組んでまいったところですが、2013年度からは、本校に関係の深い企業関連の方々を中心に卒業生も含め「学校関係者評価委員会」を設置し、ご意見等をお聞きして、教育活動や学校運営に反映させております。

本年度については、学校関係者評価委員会を2021年5月17日に開催いたしました。その結果を、保護者や地域社会の皆様方に対し、説明責任を果たし、理解と協力を得るために「学校関係者評価委員会報告書」としてここに公表いたします。

学校関係者評価委員会では、本校が行った自己点検評価や学校運営上の重点項目に対して、多くのご意見やご助言をいただきました。本校では、ご指摘いただいた諸点を真摯に受け止め、より良い教育、学校運営を実現するために、教職員一同努力して組織的・継続的な改善を続けて参ります。

皆様におかれましても、学校に対して、引き続きご支援とご協力をお願い申し上げます。

2021年6月

学校法人京都中央学院

〈専〉Y I C 京都工科自動車大学校

校長 村田 忠男

学校法人京都中央学院 〈専〉 Y I C 京都工科自動車大学校

学校関係者評価委員会

任期：2021年4月1日～2023年3月31日

(敬称略)

選出区分	氏名	所属等
業界団体	徳田 悦生	一般社団法人京都府自動車整備振興会 専務理事
業界企業	伊藤 康久	ネットヨタ京華株式会社 取締役 管理本部長
業界企業	嶋 雅明	有限会社嶋自動車電機 代表取締役
業界企業	鳥居 和浩	滋賀ダイハツ販売株式会社 代表取締役会長
業界企業	松田 晋吾	株式会社レオタニモト 専務取締役
業界企業	森脇 勝幸	いすゞ自動車近畿株式会社 取締役 管理部門 統括
卒業生	岡 咲穂	滋賀ダイハツ販売株式会社 サービスエンジニア

学校事務局	氏名	所属等
学 校	細田 元一	学校法人京都中央学院 本部長
学 校	村田 忠男	〈専〉 Y I C 京都工科自動車大学校 校 長
学 校	喜多 好洋	〈専〉 Y I C 京都工科自動車大学校 教務課長
学 校	内田 幸治	〈専〉 Y I C 京都工科自動車大学校 管理部長
学 校	山根 大助	〈専〉 Y I C 京都工科自動車大学校 内部監査・I R 戦略室長

〈専〉YIC 京都工科自動車大学校 学校関係者評価委員会 議事録

会議名	2021 年度 第 1 回学校関係者評価委員会
日時	2021 年 5 月 17 日 (金) 13:30~15:25
場所	〈専〉YIC 京都工科自動車大学校 1 号館 3 階 131 教室
参加委員	<p>一般社団法人 京都府自動車整備振興会 専務理事 徳田 悦生様 京都トヨペット株式会社 ネットトヨタ京華株式会社 取締役 管理本部長 伊藤 康久様 滋賀ダイハツ販売株式会社 代表取締役社長 鳥居 和浩様(代理根本 直輝様) 有限会社嶋自動車電機 代表取締役 嶋 雅明様 株式会社レオタニモト 専務取締役 松田 晋吾様</p> <p>事務局：村田校長、細田本部長、山根内部監査・IR 戦略室長、内田管理部長、澤総合支援室長、喜多教務課長 わがザバー：課長補佐小林先生、課長補佐三宅先生、内部監査鳥井 Zoom 参加：一級自動車整備学科科長竹下先生、自動車整備科科長中澤先生、二輪自動車整備科住本先生</p>
議長	ネットトヨタ京華株式会社 伊藤康久様
記録者	内部監査室：佐藤
配布資料	委員会名簿、2020 年度〈専〉YIC 京都工科自動車大学校自己点検・評価結果、教育課程一覧、コース別カリキュラムマップ、カリキュラムポリシー、学校紹介パンフレット
進行	
1) 校長挨拶	<p>昨年度から続くコロナ禍の学校の状況をご報告します。 現在、金空事態宣言下で、昨年度の緊急事態宣言の際には休校要請がありました。しかしながら蔓延防止等重点措置の頃から休校ではなく、現在はオンライン授業の推奨、一時に入学する学生を 50%以下とする登校要請となっている。オンライン、オンデマンド、サテライト形式、分散登校など感染症対策を講じながら授業を行っている。 一年以上つづく with コロナの状況を振り返ると、なれないオンライン授業などに戸惑いや不安もあり、このまま続けば単位認定できるのか、卒業認定できるのか、オンラインやオンデマンドの授業も技術的にも十分とはいえない中で、実習など行いにくい状況で授業が成り立つのかなど不安があった。また、行事なども中止となっていることが学生にどのような影響を与えているか、学生の経済状況、就職先の動向なども注視していた。 そのような中、3 月には 86 名の卒業生を送り出す（国際 IT や国際自動車で 44 名留学生含む）ことができた。122 名（留学生 60 名）の新入生を迎えた。 日本人学生は前年を下回る入学人数であったが留学生に期待しているが、今後、コロナ禍の入国制限で日本語教育機関かなり苦戦しており、入国ができないので、日本語教育機関からの入学がほとんどである国際自動車はこの先、募集が厳しくなることが予想される。来年度以降の国際自動車整備科、国際 IT ビジネス科では入学に対し、何らかの対策が必要であるとともに日本の高校生の募集をしっかりとできるようにすべきと考えている。 学校法人京都中央学院は 3 校の専門学校と日本語学院を運営している。日本語学院は厳しい状況が続き、ペットとビューティは新生入生が順調に伸びている。現在、それぞれ 250 名ほどの在籍となっている。 工科自動車は 3 号館を利用していましたが、配置変更となったことの説明。 これらの背景から工科大学校の学科再編を行い、募集を成功させるため原点に立ち返り教育の質の向上を追求していくべき課題と考える。学習内容の充実を図るためにも一つのツールとしてこの委員会を有効にしたい。 本日も皆様の関連なご意見をいただきたい。</p>
2) 教職員紹介	各教職員挨拶
3) 関係者評価委員紹介	各委員挨拶
4) 定員数確認および委員長の選出	委員 7 名中、2 名欠席で過半数を満了し、本委員会は成立する。 委員長に根本様を推薦、全員の賛同により承認された。
5) 配布資料等確認	資料読み上げ
6) 議題	1. 2020 年度の自己点検評価結果について

平成 30 年度の自己点検評価結果について（山根）

- ・自己点検評価結果の説明に先立ち、本校の概要に関して校長から説明があった。
- ・「2020 年度〈専〉YIC 京都工科自動車大学校 自己点検・評価結果」に基づき、教務科長の喜多より評価方法の見直し、および以下の項目の説明があった。

- ① 1. 教育理念・目標
- ② 2. 学校運営
- ③ 7. 学生の受入れ募集
- ④ 8. 教育の内部保証システム
- ⑤ 9. 財務
- ⑥ 10. 社会貢献・地域貢献
- ⑦ 11. 国際交流

2. 2021 年度の課題と重点項目について

評価項目	項目番号	課題と今後の改善
1. 教育理念・目標	1-5	<p>課題 1-5 においては、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーに関して、学生や保護者の理解度が不十分に感じる。</p> <p>今後の改善方策 1-5 においては、全教職員が常に 3 P を意識し取り組むことにより、保護者説明会やオリエンテーションで伝えた効果を向上させる。 特に教員はカリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーに注力し、授業を展開するよう心がける。</p>
2. 学校運営	2-8	<p>2-8 について評価を 2 ややや不適切とした。</p> <p>課題 2-8 においては、学科長以上の担当時間数が多過ぎると考えている。 17 コマ/1 週で行われている。学科長クラスで 12~14 コマ担当している。</p> <p>今後の改善方策 今後、学科長クラスは 7~8 コマにしたい。 自動車の進化、卒業生に求められるスキルも変わってきたので学科全体の見直しが必要でできない。 2-13 においては、会議等振り返りの際、議事録等の資料作成の期日が守られていない。</p>
3 教育活動	3-5	<p>課題 3-5 においては、学習参加の前提としているスキル、要件を確認するためのアンケートのヒアリングをおこなっている。WEB コンテンツによるリメディアル学習（入学前学習）を中学の数学レベルや国語の簡単な敬語、丁寧語などが含まれる。入学前までに事前学習教材は全員終了しているが、学習効果が明確でない。</p> <p>3-12 においては、以前は配布していたシラバスが今は HP 上での公開が授業開始に間に合っていない。現在は 2020 年度のもの公開されている。法人全体で改善を検討してもらいたい。</p> <p>今後の改善方策 3-5 2021 年以降はその効果を計る試験の実施を考えている。また、リメディアル教材を受講する前と後を比較できるような取り組みも検討。 3-5 においては、リメディアル学習のベースとした確認試験をオリエンテーション時に実施する。 3-12 においては、理事会での承認時期も含めて再検討いただく。</p> <p>自動車の課題を加えたリメディアル学習を模索している。</p>

4 学修成果	4-5	<p>こちらは就職活動がメインの項目となっている。</p> <p>2 就職率の向上が図られているか 3 資格取得率の向上が図られているか 4 退学率の低減が図られているか (学生の進級率と卒業率はどうか) また、退学率は学校全体で3%と以内としているが昨年は2%になっている。 教員が頑張っている証明になっていると考えている。</p> <p>課題 4-5・11 においては、業界・企業との連携は強くなり卒業生の動向を把握出来るようになってきたが、学校内の各部署にて情報共有レベルが低い。</p> <p>今後の改善方策 4-5・11 においては、学校内での情報共有のシステム、及びルールを整備し確実に運用する。 卒業生の動向は企業連絡懇談会などで情報交換したいと考えている。 退職情報以外にどのようなキャリアの業務を担当しているかなども収集したい。</p>
5 学生支援	5-5 5-12	<p>5-1, 5-2, 5-5 について評価を3に、5-12 については評価2とした。</p> <p>課題 5-5 においては、各企業様もしくは卒業生が母校に求める支援内容と実態の把握不足。 一級小型自動車整備士の口述試験が卒業後5月にあるが水曜日に勉強会を開催するなど対応をしている。 5-12 においては、キャリア教育(ガイダンス:職業別理解)等を除いては連携授業等は実施していない。</p> <p>今後の改善方策 5-5 においては、教育課程編成委員会、及び企業連絡懇談会等を通じて把握し実施に努める。 5-12 においては、WEBによるオープンキャンパスと同様に高校または自宅に居ながら体験・相談が行えることを周知する。※注2</p>
6 教育環境	6-2 6-3	<p>課題 6-2・3 においては、アクティブセーブビークル(ASV)の学習車両の充実。 6-4 においては、図書スペースはあるが、所蔵書の内容が十分でない。</p> <p>今後の改善方策 6-2・3 においては、実習車両・教材の適宜入れ替え(3~4年毎)検討 6-4 においては、他分野との所蔵スペースを考慮しながら学生が閲覧可能な自動車分野の書籍を増やす。</p> <p>6-2,3 については現在の学びに適しているかという内容、アクティブセーブビークルの車両の充実を図る 3~4年入れ替えができるように検討したい。</p> <p>今年度から学生へのタブレットの配布を行う予定(上級生から)、蔵書の充実とネット検索の充実</p>
7. 学生の受入れ募集	7-7	<p>昨年も同様の課題があり解消できていない課題。</p> <p>課題 7-7 においては、学習障害や適応障害の対応力等が不十分である。</p> <p>今後の改善方策 7-7 においては、対応方法や支援方法に関する研修会やセミナーへの参加をさらに行い、教務内にて共有する。</p> <p>特記事項 個々の教員のスキルUPに加えて、共有するシステムと対応する部署の明確化も同時に行う必要がある。</p> <p>広報が行っている。現時点では問題はない。 FDの実施ができていない。 情報共有できる環境整備する。</p>

8. 教育の内部保証システム	8-2 8-6	<p>課題 8-2 においては、教員による授業参観が困難な場合が多い。 8-6 においては、教員の個人面談時に相談された内容を上層部へ打診・相談がスムーズに出来ていない。</p> <p>今後の改善方策 8-2 においては、授業参観の期間中の時間割を調整し、多くの教員が授業を参観できる体制が必要。 8-6 においては、面談を行った部門のリーダーは、内容によっては速やかに対応する。</p> <p>授業アンケート、教員同士の授業参観は有意義ではあるがコロナ禍で定期的を実施できていない。 また、授業が被って見られないなどがあった。→授業を入れ替えて検討したい。 学生が能動的におこなっているなど</p> <p>〈2020年1回目の対応の報告がない〉授業アンケートを実施し担当教員にフィードバックしているが、それによりどの程度改善されたかが判断し難い。 評価の理由としては授業アンケートは行っている。担当教員にも通知しているが、改善、実施、効果の評価がじゅうぶんでないとした。今後の改善としてこちらはPDCAをしっかりと回し、効果を上げる。としているが、改善チェックをするそのPDCAの体系を確立し、その都度、効果・改善を評価する。</p> <p>8-2, 8-3 教員のスキルUPをさらに高める計画的・継続的研修等の取組が必要である。 今後の改善は積極的に研修参加を促し、自己スキルUPのための自己研鑽にを意識して取り組みさせる。教員間でお互いの授業参観を行い授業の質の向上に繋げる。 学校として体系的な取り組みがまだまだ不十分とした。</p>	
9. 財務		特になし	
10. 社会貢献・地域貢献	10-2	<p>課題 10-2 においては、学校全体の取り組みとして貢献度をあげて、学生の経験に繋げる必要がある。</p> <p>今後の改善方策 10-2 においては、全学生による「京都市みやこ土曜塾」がコロナ禍により実施できない為、他の内容にて実施する。</p> <p>特記事項 ボランティア活動の持つ意義を学生と教員が理解し、実施する事が重要。</p>	
11. 国際交流	11-2 11-3	<p>課題 11-3 においては、学生の身元保証人等についての対応が不十分である。</p> <p>今後の改善方策 11-3 においては、校内外の関係機関と相談し、最適な方法をとる。 国際自動車整備科は年間40名卒業していくが、設置して5年目、昨年国際自動車部門長として見たが下宿、企業奨学金など保証人がいないなどの課題</p>	
3. 2021年度の取り組みへの意見等			
評価項目	項目番号	ご意見・質問(委員)	回答(事務局)
7. 学生の受入れ募集	-	徳田 外国人の関係は特に大変だと思われる	
7. 学生の受入れ募集	-	伊藤 シビアな評価をするのは大変。学校側や民間側からサポートできればと思う。ご連絡を	

7. 学生の受入れ募集	-	<p>嶋 留学生 60 名入ってこないというところについてはどう考えられているのか。</p> <p>コロナ禍でどのような経路で？</p>	<p>喜多 外部の日本語学校から集客、指定校制度の導入を検討し、定員確保をしたい。本来は日本人のエンジニアを安定的に排出できる環境作りを考えたい。</p> <p>国内の日本語学校からの入学が主。日本語学校への入国が国別で難しくなっている。</p>
	補足	<p>嶋 技術者を求める我々からすると留学生のことばかりでいいのか。</p> <p>外国人ビザの取り組みの難しさなど代議士にもお話ししたい。</p> <p>日本人にも興味を広げるような教育活動をしていただきたい。</p>	<p>細田 昨年入学する予定 37 名が入学できない待機中。 この 4 月、入国管理局の審査が厳しくなったが 90 名入国する予定だが、まだ入国できない。 全国的に日本語学校がコロナ禍の影響でかなり疲弊している。 2022 年に始動するプロジェクトがあり中国の大学、専門学校と提携して現地に教員が出向き指導するという企画がある 3 年生で日本の資格を取ってという学生がいれば日本に来ていただく。</p>
5 学生支援	-	<p>松田 卒業生の就職した先の活躍の調査、人間関係が上手くいかず、他業種にいくなど再就職支援していただけると働く環境が変わっても技術を活かせるほうがもったいない。 募集をする企業側も働き方改革で苦渋の決断として休日を増やすのはマイナスを考えたが、良い就労環境ということで優れたエンジニアの募集には有効であった。企業側の努力として取り組む重要な取り組みと改めて気づかされた。</p> <p>メカニック減少を抑えるよう、なんとかフォローしたい。</p>	<p>喜多 新人の頃は給料もらいながら指導していた。自分の給料分の売り上げをあげるだけでも数年はかかる。</p> <p>理由があって退職しても業界を離れず、業界に留まるよう、卒業後、10 年間は再就職支援している。 企業への恩返しをした上で独立などの支援もしたい。</p>
2. 学校運営	2-8	<p>根本 2 点、2P 教員の授業のコマを減らすという項目についてリアルと WEB で受けたとムラがあるのか</p> <p>リモートで学び損ねが発生してはならない。</p> <p>3P のリメディアルの学習ムラについてはテストを行えばできるグループとそうでないグループと上下 2 極化した場合の隔たりへの対応などは</p>	<p>喜多 はい、授業をオンラインやオンデマンド、サテライトなどを併用して実施している。サテライトでは各教室に教員が入り、質疑応答などの対応を行っている。</p> <p>リメディアルの学びについては差が生じた場合は現在未定</p> <p>学生支援でリメディアルで進捗が遅延していた学生や課題が残った学生に対しては教員が対応している。</p> <p>YIC では提出しろということではなくちゃんと提出されるまで終わらないということを理解させる。</p>
2. 学校運営	2-8		<p>細田 工科は現在内部システムによる事前学習を行っている。 他 2 校では外部の学習効果システムによる測定を実施している。 半年後に再試験を行い学習効果を測定するよう取り組んでいる。</p> <p>何らかの入学後教育をしないといけないかなと思っている。まだ具体的な取り組みは行ってない。 目的は国家試験を取らせないと行けない。</p>

<p>全体</p>	<p>-</p>	<p>松田 二輪は4輪とは違う 2輪の業界の情勢というはお伝えできるがどのタイミングになるのか</p> <p>二輪業界は年間国内出荷台数が40万台市場と言われ、全盛期に比べると1/10ほどになっている。 その中でディーラー政策の取り組みで、この車種のこの排気量はこの店舗でしか販売されないなど、メーカーホンダであればホンダドリーム政策と言われ、京都市内であれば4拠点以上増えない。レオ谷本はそのうち1店舗担当しているが、その他3店舗はメーカー直営店である。カワサキ様は市内に3拠点しか設置できない。卒業生の久保村さんのお父様の系列お店とレオ谷本様が1店舗(卒業生の的場様がストアマネージャー)にて販売できる排気量を制限して、それ以外の販売店では販売されない。それゆえ、他店が販売できない車種を入手するために＝中古市場が新車より高いなどプレミアがつくなど高騰している現象がおきている。</p> <p>今後は働く状況が激しい企業も出てくると思われる。 このコロナ禍でパーソナルな移動手段として原付や125CCクラスの販売が伸びているが、このコロナで世界規模でコンテナが足りていない状況で海外拠点で製造される車両がなかなか国内に入庫されない状況が続いている。50ccの原付が一月あたり1台しか納品されない状況。契約いただいても納品できないなど、売り上げを考えると食べていけないような状況が続いている。</p> <p>このような中で業界に魅力を感じていただいて、この業界で働きたいと思っただけの人を如何に増やしてけるかなど、学校の取り組みと摺り合わせが必要。 もし、国内で整備技術を学ぶ方が少ない海外から学生を受け入れるなら、日本語レベルの教育対応はしないといけない。 →雇用は大丈夫か。</p>	<p>細田 企業連絡相談会・情報交換会もある。 毎年、7月に開催している。</p> <p>離職率のことや長く努めることをベースに話あうことが必要。</p> <p>そもそも二輪希望が少ない。</p>
<p>全体</p>	<p>-</p>	<p>根本 整備振興会の依頼で高校内で他の企業様と順番に自動車業界についてというようなキャリア教育の機会をいただくこともあった。その際にYICも含めて関西一円の要請施設の資料を配布するお知らせをする程度などの協力を微力ながらしたい。 また、ピンポイントで協力できるところは相談したい。</p>	<p>専門学校だけで高校側へのキャリア教育のご提案をするよりも、学校と企業や業界と一緒に動くことで高校側にも関心をもっと持ってもらえるのではないかと。</p>

8) 今後の予定

年一回の実施で今年は今回で終了。ご意見は今後ご連絡いただきたい。(山根)

以上